式　辞

厳しい冬の寒さも日増しに和らぎ春の息吹を感じられるようになった今日の佳き日に、大阪府立四條畷高等学校第75回卒業証書授与式を挙行できますことは、卒業生はもとより、在校生、教職員一同この上もない喜びでございます。大阪府教育庁副理事兼高等学校課長　白木原　亘（しらきはら　わたる）様、四條畷市長　東　修平（あずま　しゅうへい）様をはじめ、公私共にお忙しい中、多くのご来賓のみなさまに、ご臨席を賜りました。高いところからではございますが、厚くお礼申し上げます。

保護者の皆さま、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。心よりお祝い申しあげます。コロナ禍における３年間は通常とは異なる様々なご苦労・ご心配があったことと拝察いたします。お子様は、本校での３年間を通じて、逞しく立派に成長されました。お子様を支え、育まれてきたことに対しまして敬意を表するとともに、これまで本校の教育活動にご協力、ご支援いただきましたことに心より感謝申し上げます。

さて、ただ今、卒業証書を授与しました353名の75期生の皆さん、卒業おめでとうございます。私にとって、75期生はとても思い入れの強い学年です。それは、私も皆さんと同じ３年前に本校に赴任し、コロナ禍で一緒に過ごして、ともに悩み、ともに喜び、時間や空間を共有してきたという思いがあるからです。

私は、３年前の４月、入学式で皆さんに会えるのを楽しみにしていました。しかし、私の願いは緊急事態宣言の影響で叶いませんでした。皆さんの姿を初めて見ることができたのは、それから約１か月後の５月14日でした。しかも、３つのグループに分かれての分散登校。そして、全員そろっての授業がスタートできたのは、さらに１か月後の６月15日でした。約２か月もの間、皆さんがどれだけ不安な気持ちを抱えて自宅学習を続けてきたのかを思うと、心が痛みました。そして、その後もマスク越しの授業、部活動や大きな声を出す教育活動の制限、昼食時の黙食など、前例のない高校生活の中で、皆さんにはずっと我慢をお願いしてきました。２年生の修学旅行も緊急事態宣言の影響で、当初予定していた北海道修学旅行は実施できず、急遽行き先を南九州方面に変更して実施しました。それでも、ホテルで、マリンスポーツで、レクレーションで、皆さんが精一杯楽しむ姿や笑顔をたくさん見ることができたこと、最高でした。南九州に来てよかった、修学旅行ができてよかったと心底思いました。そして、今年度の畷高祭では、準備期間初日に早朝から中庭で練習する３年生の多さ、発声練習の声の大きさに最後の畷高祭にかける皆さんの決意を感じました。畷高祭本番は、大劇のクオリティの高さ、皆さんの熱量、クラスの一体感、本当に圧巻でした。コロナ禍以前の畷高祭を取り戻すどころか、コロナ禍以前よりも進化した新たな畷高祭を創り上げてくれました。「今できることを大切にして、仲間と一緒に全力を尽くす。そして、精一杯楽しむ」、そんな皆さんの姿に、75期生の仲の良さ、強さ、逞しさ、そして成長を感じま

した。畷高の校訓である「自主・自律・自由」の精神の下、コロナ禍の逆境を乗り越え、授業や部活動、行事、課題研究に全力で取り組み、「文武両道」を見事に実践した皆さんを誇りに思います。

現在、国際社会は、終わりの見えないロシアによるウクライナへの軍事侵略、依然として続く新型コロナウイルス感染に対する不安、貧困や気候変動など、予測が困難な多くの課題に直面しています。また、現代社会は、ＳＮＳの発達などによって人間関係が希薄になっているとも指摘されています。そうしたなかで、私たちが人生において幸福感を持ち、充実した日々を送るために必要なことは何でしょうか？

私は、皆さんに「言葉」を大切にしてほしいと思っています。３年間続いてきたコロナ禍で、私たちは常時マスクを着用し、対面での言葉のやり取りを制限されてきました。しかし、そのような中でも、私たちは、周りの人たちのたくさんの言葉に助けられ、励まされてきました。言葉には本当に不思議な力があります。

詩人や劇作家として多方面で活躍した寺山修二さんは「言葉を友人に持とう。言葉は肩をたたくことはできないし、言葉と握手することもできない。だが、言葉には言いようのない、旧友のなつかしさがある」と述べています。

「あなたは一年前の悩みが言えますか？」先生にそう言われて「人は成長する。今の悩みはささいなことだ」と悟った生徒がいました。「花は咲くときにはがんばらない。ゆるめるだけ」という言葉で「頑張らなくてもいいんだ」と緊張感から解放された生徒がいました。言葉には、即効薬のように力をくれるものがあります。また、浸みた雨が泉となって沸くように、時間をかけて心に届く言葉もあります。

私たちは、人生を豊かにするために学びます。同時に「学び」は社会に役立ってこそ価値があります。そして、「学び」を社会に届けるためには言葉による発信が必要です。学んできたことを「言葉」として発信し、人々や社会が豊かになっていく。皆さん、そんな「明日の希望を語ることができるリーダー」になってください。ポストコロナの新しい時代の担い手は皆さんです。私は、皆さんの無限の可能性を信じています。

皆さんは、４月から大学など新しいステージで学びます。そこではいろいろな人との出会い、いろいろな言葉との出会いが待っているはずです。高校までは、優しい言葉や温かい言葉に触れる機会の方が多かったかもしれません。しかし、大学や大学院、社会へと進むにつれて、責任が重くなる分だけ、厳しい言葉やつらい言葉、悲しい言葉に触れる機会が多くなるはずです。

辛い時は、少し立ち止まって、畷高での３年間を思い出してください。そこには、時には厳しく、時には優しく接してくださった先生方、ともに喜び、ともに涙した仲間、温かく見守ってくださったご家族など、多くの人たちの励ましや支えがあったはずです。そのことを思い出してください。これから

も皆さんが全力で頑張っている姿は必ず誰かが見守ってくれています。そして、私たち畷高の教職員はこれからもずっと皆さんの応援団です。75期生の皆さん、どうか自分らしさを大切にしながら、幸せな人生を切り拓いていってください。

結びに、皆さんの前途が健康で幸多きものでありますことを心からお祈りして、式辞といたします。

令和５年２月28日

大阪府立四條畷高等学校長　稲葉　剛